

Multiplicative operations in BP cohomology

大阪市大 理 荒木捷朗

BP コホモロジーにおける乗法的コホモロジー作用素の性質を研究する。§1 においてすべての乗法的コホモロジー作用素は $BP^*(\)$ の自己同型になることも示す。従って、乗法的作用素全体を $Mult(BP)$, $BP^*(\)$ の自己同型群を $Aut(BP)$ とあらわすとき、

定理 1. $Mult(BP) = Aut(BP)$.

§2 で乗法的コホモロジー作用素の中で特に重要な Adams 作用素を定義し、§3 で次の定理を証明する。

定理 2. $Ad(BP) = Z(Aut(BP))$. 但し $Ad(BP)$ は Adams 作用素全体の作る $Aut(BP)$ の部分群を、 $Z(Aut(BP))$ は $Aut(BP)$ の中心をあらわす。

§1. 乗法的作用素

$$\mathbb{H}_a : BP^*(\) \longrightarrow BP^*(\)$$

に対して、

/

$$\mathbb{H}_a(e^{BP}(L)) = \phi_a^{-1}(e^{BP}(L))$$

とおくとき (L は複素直線束, $e^{BP}(L)$ は L の Euler 類), ϕ_a は \mathcal{M}_{BP} 上の typical curve になり, 一次の項の係数が 1 になる. 従って

$$\phi_a(T) = \sum_{k \geq 0} a_k T^{pk}, \quad a_k \in BP^{2-2pk}(\mu^k),$$

 $a_0 = 1$, と表わすことが出来る. BP の本元 $\mathbb{Z}/2$ の普遍性より, かくして得られる

$$a = (a_1, a_2, \dots, a_n, \dots), \quad a_n \in BP^{2-2pn}(\mu^n),$$

 と \mathbb{H}_a とは 1 対 1 に対応する. したがって

命題 1. $\mathbb{H}_a = \mathbb{H}_b \iff \mathbb{H}_a(\mu^k) = \mathbb{H}_b(\mu^k).$

と容易に得られる.

$\mathcal{M}_{BP}^{\phi_a} = \mathcal{M}_a$ とおく, \mathcal{M}_{BP} と \mathcal{M}_a 上の p に対する Frobenius 作用を f_p, f_p^a とし,

$$\phi_a \circ f_p^a \gamma_0 = f_p \phi_a$$

と通りに計算する. $BP^+(p^k)$ の augmentation の kernel \mathcal{I} とし,

$$\sum_{i \geq 1} \mathbb{H}_a(v_i) T^{p^{i-1}} \equiv \sum_{i \geq 1} (v_i + p a_i) T^{p^{i-1}} \pmod{\mathcal{I}^2}$$

を得られる. これより

$$\mathbb{H}_a(v_k) \equiv v_k \pmod{(p) + \mathcal{I}^2}$$

とす. (但し $(f_p \gamma_0)(T) = \sum_{i \geq 1} v_i T^{p^{i-1}}$, $BP^+(p^k) = \mathbb{Z}_{(p)}[v_1, v_2, \dots, v_k, \dots]$). 従って

$$\textcircled{H}_a(\mathcal{M}) : BP^*(\mathcal{M}) \cong BP^*(\mathcal{M}).$$

これより, 一般コホモロジーの比較定理を用いて

$$\textcircled{H}_a \in \text{Aut}(BP)$$

を得, 定理 1 が証明される.

§2. 今後, BP コホモロジーの基礎環を \mathbb{Z}_p から p 進整数環 \mathbb{Z}_p にまで拡張して考へる. J. Lubin, One-parameter formal Lie groups over p -adic integer rings, Ann. of Math., 80 (1964), 464-484, の方法を拡張し, \mathcal{M}_{BP} の自己準同型

$$[\alpha]_{BP} \in \text{End}(\mathcal{M}_{BP})$$

が $\alpha \in \mathbb{Z}_p$ に対して定義されることを示す.

$$[\alpha]_{BP} = \alpha T + \text{higher terms},$$

$$[\alpha]_{BP} + {}^{\mu_{BP}}[\beta]_{BP} = [\alpha + \beta]_{BP},$$

$$[\alpha]_{BP} \circ [\beta]_{BP} = [\alpha\beta]_{BP}$$

の性質をもち.

特に α が \mathbb{Z}_p の単元のとき,

$$\psi_\alpha(T) = [\alpha^{-1}]_{BP}(\alpha T)$$

とおくと, ψ_α は \mathcal{M}_{BP} 上の typical curve になる. この curve に対応する BP^* の乗法的作用素を Ψ_α と取り出し, BP コホモロジーの Adams 作用素と見なす. 複素直線束 L に対し

$$\psi_\alpha(e^{BP}(L)) = \alpha^{-1} [\alpha]_{BP}(e^{BP}(L))$$

となり、次の性質をえらう。

$$i) \quad \psi^\alpha(\beta t) | BP^{-2s}(\beta t) = \alpha^s \cdot \text{id}.$$

$$ii) \quad \psi^\alpha \psi^\beta = \psi^{\alpha\beta} = \psi^\beta \psi^\alpha.$$

この等式は Adams 作用素 ψ とよばれるにふさわしい性質であることは、K理論の Adams 作用素の性質と比較すれば理解されるであろう。S. P. Novikov, The method of algebraic topology from the view point of cobordism theories, Izv. Akad. Nauk SSSR, 31 (1967), は U コホモロジーシステムにおける Adams 作用素を定義しているが、 U コホモロジーシステムを p で局所化して BP コホモロジーシステムに分解するとき、Novikov の Adams 作用素はこの BP コホモロジーシステムの Adams 作用素になる。

命題 1 の上の性質 ii) より

$$iii) \quad \psi^\alpha = \psi^\beta \iff \alpha^{p-1} = \beta^{p-1}$$

がわかる。 BP コホモロジーシステムの Adams 作用素全体を $\text{Ad}(BP)$ と表す。 $\text{Ad}(BP)$ は $\text{Mult}(BP)$ の部分群をなすが、iii) より

$$iv) \quad \text{Ad}(BP) \cong U_1(\mathbb{Z}_p)$$

となることがわかる。但し、 $U(\mathbb{Z}_p)$ は \mathbb{Z}_p の単元の作る乘法群をたよるとき、 $U_1(\mathbb{Z}_p)$ は

$$U_1(\mathbb{Z}_p) = \{ \alpha \in \mathbb{Z}_p; \alpha \equiv 1 \pmod{p} \}$$

たゞ $U(\mathbb{Z}_p)$ の部分群である。

更に、 BP のホムロジコーム \rightarrow における Landweber-Novikov-Quillen 作用素 γ_E , $E = (e_1, e_2, \dots)$ との関係として

$$vi) \quad \gamma_E \circ \psi^\alpha = \alpha^{|E|} \psi^\alpha \circ \gamma_E$$

(たゞ) γ がわかる、(i), (v) より、 $2s$ 次の作用素

$$\Xi_s : BP^*() \rightarrow BP^{*+2s}()$$

に対して

$$vii) \quad \Xi_s \circ \psi^\alpha = \alpha^s \psi^\alpha \circ \Xi_s,$$

たゞ γ がわかる。すなわち乗法的作用素は 0 次のものから、

vii) より得る

命題 2. $Ad(BP) \subset \Sigma(Mult(BP))$

が得られる。

§3. 命題 2 の逆の包含関係

$$Ad(BP) \supset \Sigma(Mult(BP))$$

を示すことにより定理 2 を証明する。

(H) $a \in \Sigma(Mult(BP))$, $a = (a_1, a_2, \dots)$, とする。

$b \in BP^{2(1-p^k)}(pt)$ に対し、列

$$(b, k) = (0, \dots, 0, b, 0, \dots)$$

を考へると、

i) (H) $(b, k)(v_l) = v_l, \quad 1 \leq l < k,$

ii) (H) $(b, k)(v_k) = v_k + pb$

を得る. \circ は可換性

$$\Theta_{(b, k)} \circ \Theta_a = \Theta_a \circ \Theta_{(b, k)}$$

より, 関係式

$$\text{iii) } \Theta_{(b, k)}(a_k) + b = a_k + \Theta_a(b)$$

を得る.

$$\circ, \tau, \text{ 特 } b = v_k \circ 1 \circ$$

$$\text{iv) } \Theta_a(v_k) = (1 + p\lambda_k)v_k, \quad \lambda_k \in \mathbb{Z}_p, \quad k \geq 1,$$

$$\text{を得, 又 } b = v_k + v_1^{(p^k-1)/(p-1)} \circ 1 \circ$$

$$\text{v) } 1 + p\lambda_k = (1 + p\lambda_1)^{(p^k-1)/(p-1)}$$

を得る. 従って $\lambda \in U(\mathbb{Z}_p)$ と

$$\lambda^{p-1} = 1 + p\lambda_1$$

となり, ように選ぶと, §2 の Adams 作用素の特異性より

$$\Theta_a(pt) = \Psi^{-\lambda}(pt)$$

となり, 命題 1 より

$$\Theta_a = \Psi^{-\lambda}$$

となり, 定理 2 の証明は完了.

(以上)